



大橋図書館のリファイン、JR跡地の有効活用を考えよ

自由民主党目黒区議団

市沢 芳範 議員

(大橋地区) (1) 大橋図書館移転後の施設は子どもたちや高齢者を考え、有効に活用せよ。(2) 大橋ジャンクション内部の空間利用について考え方を問う。

区長 (1) 基本計画等の改定に際し、効率的施設運営を検討したい。(2) 事業者と協議を重ね、区民意見を伺って平成23年度中の完成を目指す。

(産業振興) (1) パスモ導入に際し、参加店の増大と区施設での使用を検討せよ。

(2) 商店街の街路灯の補助金を増額せよ。

区長 (1) 商店主対象のパソコン講座を開いてシステム導入の理解を深め、区施設での支払い利用について協議を重ねる。

(2) 実情を調べて検討したい。

(職員改革) 職員の意識改革と、視野拡大を目的とした視察を行い、行政改革の



目黒の未来をかたちに! まじめに真剣!

自由民主党目黒区議団

佐藤 昇 議員

原動力とせよ。

区長 職員提案制度等を活用する。視察については広い視点で検討したい。

(防災) 防災無線機の送信訓練と他区隣接地域での合同防災訓練を実施せよ。

区長 各地域での防災訓練の機会に操作訓練を行い、今後モデルケースとして合同訓練実施の可能性を研究する。

(JR跡地) (1) 平成19年末に初めて地元住民説明会が開催されたが、今後開催の予定はあるか。(2) 跡地の有効活用について問う。

区長 (1) 時期は未定だが開催する予定である。(2) 周辺地区を含めたまちづくりの視点から、住民と十分協議を重ね、事業実施方針等の作成を進みたい。

(職員改革) 職員の意識改革と、視野拡大を目的とした視察を行い、行政改革の

ティア」にどう取り組むか。(2) シニアボランティアの技能等を教育活動にどう普及するか。(3) 介護保険ボランティア活動の実績に応じ、介護保険料の一部を返還する事業を実施する考えはあるか。

(防災) (1) 第1次避難場所等に計画的に整備する。(2) 研究プロジェクトの成果に期待し、学校の防災意識啓発にも役立つと考える。(3) 避難所運営訓練等で対応マニュアル等を配布し、速報の効果的な活用を図る。地区ごとの訓練を中心とし、より効果的なあり方を検討する。

(町会・自治会) 加入率を上げ、活性化するための考え方を問う。

(教育長) (2) ニーズや人材発掘等、学校と人材を結ぶ組織的な取り組みを研究する。

予算特別委員会正副委員長



松田哲也副委員長

二ノ宮啓吉委員長

平成20年度予算案に対する討論 (要旨)

一般会計

反対 積立金優先から 住民のくらしを支える頼れる区政に

日本共産党目黒区議団 石川 恭子 議員

日本共産党目黒区議団は一般会計予算に反対する。格差と貧困が拡大する下で組まれる予算は、自治体の責務に照らし住民のくらしを最優先に支えることが問われたが問題点を指摘する。第一は、増税や社会保障改悪さらに物価高騰の下で区民の厳しいくらしの実態を把握せず、緊急対策を行うどころか福祉を削減した。第二は、経費削減を目的に区立施設の民営化を進め特養ホームでは正規職員が減らされ、運営が困難になっている。第三は、4年間で新たに積立金を141億円積み立てた一方、財政が大変といい福祉や教育を中心に200億円削減した。第四は、「区民が主役」を掲げながら福祉住宅建設のために32億円で購入したJR跡地を住民に何の説明もなく、定期借地権で民間企業に提供しようとしている。第五は、区独自の学力テストの導入と学校選択制によって学校や生徒間の競争をおり、保護者や教師の願いである少人数学級には背を向けている。

最後に、4年前区長は前区長の自殺、契約課長逮捕の下で真相究明を掲げたが、真相究明どころか疑惑を否定する発言をし、区民の期待を裏切る。本予算はくらしを支える予算とはいがたい。我が会派は、くらし最優先の区政実現に向け奮闘する。

賛成 自治機能を高めるために 視座と知恵の共有化

自由民主党目黒区議団 いその 弘三 議員

自由民主党目黒区議団は目黒区一般会計予算に賛成する。景気動向の直接的影響を受ける歳入であり注視が必要。自治体としての基本的体力も今以上に備えが必要である。予算委員会で我が会派が質疑を行ったがさらに意見を述べる。①AED配置には処置対応が施せる指導体制をせよ。公共施設等休憩日にAEDを施設により持ち出せない課題もあり観意検討せよ。②地域コミュニティへの支援・再編等持続可能な方策を考えよ。

③老人保健法・健康増進法・介護保険が改正される。区民の健康課題に対し一層丁寧な対応を実施せよ。④区内共通ポイントシステムが区民のコミュニケーションツールとして発展することを望む。キャリア相談コーナーが子育てが終わった女性を対象に再教育等を行う方策となることを期待する。⑤放置自転車対策は自動地下式や高度利用を図り、区内住宅地・公園等への放置自転車やバイクの対策も推進せよ。⑥資源の持ち去り防止への対策に対し、抑止効果の今後の動向を把握せよ。⑦めぐろ学校教育サポートセンターは根幹である「教育」に係わることから、早期の課題整理・対策の体制をせよ。自治機能を高めるために視座と知恵の共有化を図ることが行政・議会の使命であることを付け加える。

反対 青木区長は公約破り 予算編成も区民のためにならない!

無所属・目黒独歩の会 須藤 甚一郎 議員

「無所属・目黒独歩の会」は、大反対である。青木区長の任期4年、最後の予算案である。「私は、役人に負けない」の公約で当選したが、あれから4年、区長としてまったく進歩せず、困ったものだ。

「区議選・区長選の同日選挙」「多選禁止条例」の公約破りでも、謝罪もなく詭弁の答弁。今回の予算にも、財政難なのに1人60万円余の議員の海外視察費を計上した。平成18年の新年会に青木区長は、公費を使って132回、111万円余を払って新年会のハシゴ。私は返還を求め、住民訴訟を提起したが、東京地裁は「儀礼の範囲」として棄却した。しかし、「5分間の会場滞在で区政を伝えられるか」「疑問だ」の疑問符つき判決。私はすでに控訴した。

JR跡地開発は、随意契約のプロポーザル方式で、区民・議会の意見を聞かず、開発業者に丸投げだ。予算執行でも、「目黒区を楽しむ本」は目黒区は大損、出版社が大儲けのあきれた契約。めぐろキャンパス内のレストラン「シェ松尾」の要請を受け、一企業のため447万円を使い改修工事をした。20年度の予算案も、とうてい区民のために編成したものでない。

賛成 押しつけや切り捨ての無い 住民参加型の区政運営を

民主・区民会議 富士見 大郎 議員

今回の予算は、全体としては堅実な編成であり、また個々では、妊産婦検診14回の無料化や施設予約システムの拡大など、少子高齢化に対応した施策や区民生活の利便性アップに役立つ施策が拡充され評価している。

予算審査で我が会派は、交通弱者に優しい街路設計、箱根保養所の運営見直し、住区住民会議の指定管理者制度運用の見直し、保育園並びに学童保育の待機児問題、育休家庭へのインセンティブ追加、障害児の通所支援策、特定検診・ガン検診結果の一元管理方針、バスモ活用での産業振興、三田地区店舗施設のインキュベーション・オフィス活用、開かずの踏み切り対策、障害者の自転車外出に留意した駐輪場整備、魔ブ拉斯チックサイクルへの方針、目黒区美術館運営方針、都からの教員人事権委譲問題、興津健康学園の今後の予定や転地療養が必要な児童への対策、親の所得格差が学力格差に繋がらないようにするための対策……などについて質疑・提案を行った。

区方針の押しつけや住民要望の切り捨てをせず、納得できる着地点をあきらめずに探す努力をお願いするとともに、委員会での質疑・提案を積極的に、今後の区政運営に取り入れていただけるよう要望し、本予算に賛成する。

賛成 現場の声をもっと区政に近づけよ!

公明党目黒区議団 関 けんいち 議員

公明党目黒区議団は、子育て支援、老朽化施設整備の積み立て、公債費の縮減、環境対策推進など、時代に応じた施策に重点的に予算配分された事を評価する。また、要望した「安全・安心なまちづくり」、「子育て支援」等についても予算に反映され、着実に執行されるべきで、一般会計予算に賛成する。

しかし、景気回復の停滞、原油価格の高騰など、現状、区民にとって実施計画「住みたいまち、住み続けたいまち目黒」は程よい状況にある。行政サービスも区民との間に隔たりがあり、予算執行において以下3点を要望する。

第1に、各部リーダーは積極的に現場に入り、区民の悩みを自分で聞き、責任を持つて政策決定すること。政策立案過程をあらゆる機会、媒体を通じて発信し、さらに政策を深めるために再度区民に伺い、現場の声を区政に近付ける努力を要する。第2に、木造住宅密集地に消防用水利設備の設置検討と、住宅火災警報器の拡充は必要だ。耐震改修助成にとどまらず、更なる効果的な対策を要する。第3に、子どもの未来を最優先に守っていただきたい。制度のひずみに沈んだ現状もあり、子どもの自由・人権を最大限尊重せよ。待機児童解消に向けた一層の努力と、子育て家庭への更なる支援を要する。

賛成 財源確保策と制度改革は、 区民福祉の向上を基本とせよ

工藤 はる代 議員

事業者所得の伸びにより税収増となっているが、将来のために積み立てて財源を確保したことや激変緩和策への対応、区民活動センターの設置、子育てカフェの取り組み、緑地や樹木の保全創出誘導策は評価する。だが、安全・安心は監視ではなく地域のつながりで実現すること。また、国の医療制度改革は場当たり的な改革であり、高齢者だけでなくすべての世帯で負担増となる。制度上区独自では回避できないが、施設建設・開発優先から環境と福祉優先に転換し、区民福祉の向上に努めよ。都区の再編や清掃事業、後期高齢者医療制度などの課題には地方分権、住民自治の視点で国や都と交渉せよ。

賛成 的確な予算配分を評価、 一層の課題解決に尽力せよ

戸沢 二郎 議員

世界経済の不安局面や格差の拡大等に悩む国民生活は、将来への不安を増している。本予算が、税収の堅調な伸びの中で基金を崩さず、堅実な編成方針に従事したことは当然である。その中で重要課題に予算を的確に配分したのは評価でき賛成する。

生活安全パトロール24時間運行、AEDの設置で安全・安心に寄与した。妊婦健診の拡充、放課後フリークラブ、子育てカフェ等で子育て支援を推進した。一方、地域保健福祉サービス事務所再編、後期高齢者医療制度・特定健診・特定保健指導の条件、福祉・高齢者住宅、住民との協働のまちづくり等解決すべき課題が山積することを指摘する。

後期高齢者医療特別会計

反対 高齢者の医療を受ける権利を 奪う制度の中止を

日本共産党目黒区議団 沢井 正代 議員

本制度は、75歳以上の高齢者を他の世代から切り離し、医療費や加入者の増に伴って、限界ない負担を押し付けるとともに、保険のきく医療に定額制を設けたり、終末期医療に特別の診療報酬体系を持ち込むなど、医療抑制と「病院追い出し」を目的に創設されたものである。高齢者の差別医療を一層促進せる本予算に反対する。

反対 医療費は増大していない、 政治の失敗を押しつけるな!

無所属・目黒独歩の会 坂本 史子 議員

ここ数年医療費の増加は平坦化し、老人医療費も増えていない。世界保健機構によると日本の健康寿命は世界1位、乳幼児死亡率も2番目に低い値だ。これほど「安上がり」で、良質な医療を提供できている国はないといわれる。道路計画57兆円のうちの2兆円をまわせば、今回の差別医療を防ぐことができ、すぐに産科・小児科、救急医療の現状を救うことが出来るのだ。

請願・陳情はいつでも、どなたでも出せます。

区政に関する事柄等について、区民の皆さんが直接、区議会に要望できる制度です。

請願には議員の紹介が必要です。議員の紹介がない場合は陳情となります。が、目黒区議会では請願と同様に処理いたします。

受付は常時行っていますが、定例会の会期中の委員会で審査するためには、事務の手続き上、会期の約1週間前(区役所が休みの日を除く)までに提出していただいている。この締切は、めぐろ区議会より・めぐろ区報・目黒区議会ホームページでお知らせしています。

請願・陳情は直接提出していただくことを原則としています。郵送によるものは審査しないことがあります。

平成20年第2回定例会で新しく請願・陳情の審査を希望される場合は、

6月9日(月)正午までに提出してください。

問い合わせ先 区議会事務局議事・調査係 ☎03-5722-9414

住所が
変わりました。

石橋 ひとし議員(公明)
〒153-0042 目黒区青葉台3-12-17
電話番号: 03-6661-2339 FAX兼